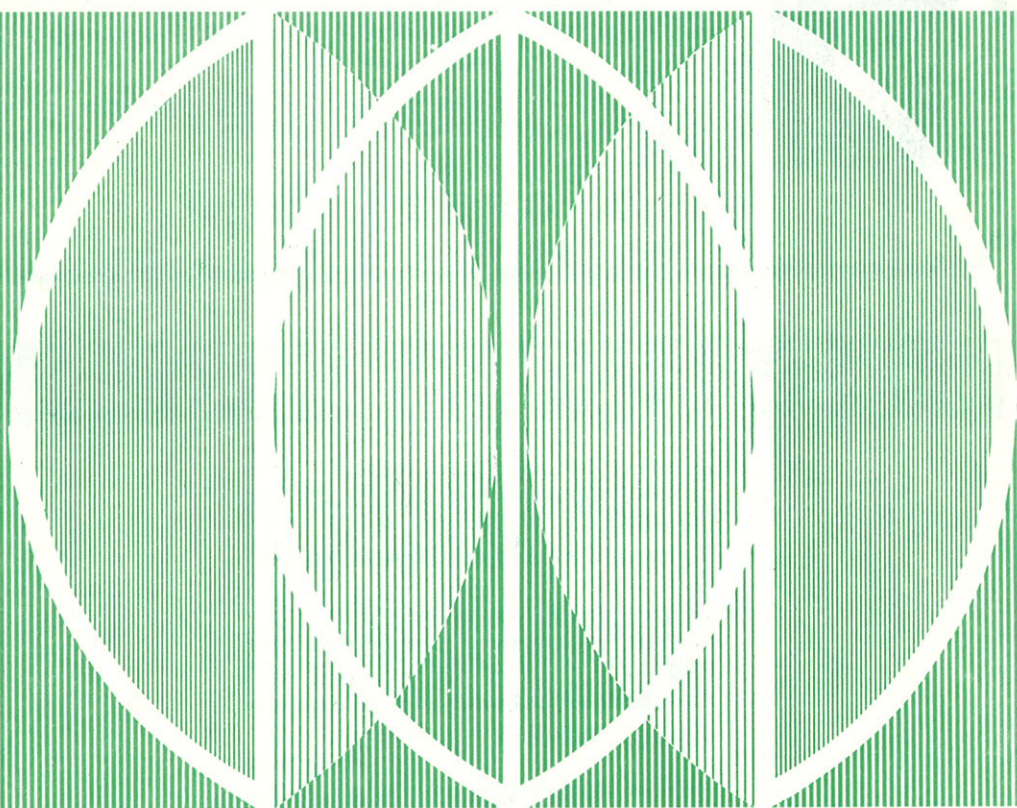


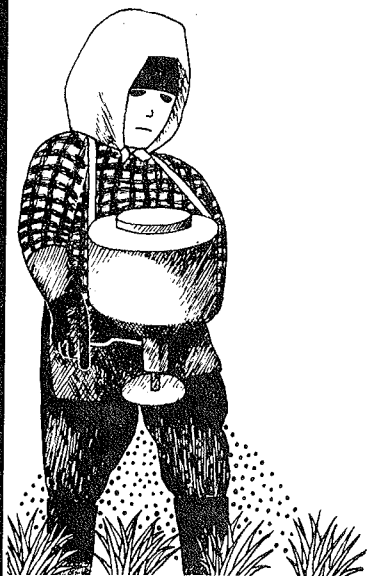
調 植

第5卷第10号



財団法人 日本植物調節剤研究協会編

より安全に、より確実に雑草退治!



水田「中期」除草剤

スエップ[®]M粒剤

- ★田植がすんで「ひま」ができてから使える待望の水田中期除草剤です。
- ★生育の進んだ2～2.5葉期のノビエをはじめ、広範囲の1年生雑草に卓効があります。
- ★マツバイにすばらしい効果を発揮します。
- ★効力の持続期間がきわめて長いです。
- ★単用または、初期除草剤との体系使用により、きわめて安全確実に雑草退治ができます。

乾田直播水稻・陸稲・畑苗代・マルチ栽培の除草には「スエップ水和剤」畑作除草には粒状スエップをお使いください。

〈スエップ普及会〉

日産化学・日本農薬・北興化学

事務局 日産化学工業(株)農薬事業部内

除草のことならおまかせください!

安全でよく効く水田用除草剤

ニップ[®]粒剤

陸稲・水稻(苗代・直播・移植)の除草に

スタム乳剤35

水苗代・稚苗移植、湛水直播に
絶好の除草剤

アタックウィード乳剤

園芸畑作物及び林業苗畑の除草に

ニップ[®]乳剤

●お求めは
農協・特約店でどうぞ……

総発売元 **三洋貿易株式会社**
〒101 東京都千代田区神錦町2の11

●誌名ご記入の上、総発売元へ
お申越下されば説明書進呈

雑草の不妊化

土地は水をためておけばいざ知らず、畑ないしは荒地の状態ですらそのまま放置しておけば地味はだんだんやせていくし、水や風のエロージョンを受けやすい。だからといって雑草のはえるにまかせておけば、草は実を結んで、その種を落とし、今度は雑草退治が容易でなくなる。特に雑草の種には幾年も休眠していて、翌年すぐはえてこないものがあるから、1年や2年枯草剤を用いたからといって、これを絶やすことは出来ない。それに1年生雑草を枯草剤で処理していると、段々宿根性の雑草が多くなってきて、いよいよ手に負えなくなる。

近頃害虫防除の方面で不妊化ということが問題として浮かび上っており、事実アメリカでは双翅目害虫の雄を放射線によって精子を殺して放ち、相当な成果を収めているし、不妊剤の研究も盛んに行なわれている。もし1年生の勢力絶倫な植物を不妊化して休耕地や耕作放棄地に密生させておけば、光線・空間の争奪や、アレロパシーなどのために他の雑草のはえるのを抑えることが出来、しかもその植物による後腐れもなく、実に「毒を制するに毒をもってする」方法ではあるまいか。

開花結実を制御する方法や薬剤は随分研究もされ、応用もされている。例えば物理的には日長の調節、ヤロビザチオンなどがあり、化学的にはバイナッブルその他の開花整一化その他枚挙にいとまない。私はかつてジャワにいたとき、収量が多いというので、雨期のイネを乾期に植えたところ、日長の関係でいつまでたっても穂が出ず、田んぼが一面の稲原となっているのを見たことがある

(日本植物調節剤研究協会会長 河田 党)

目 次

雑草防除は生態学の粋	2
------------------	---

東京大学名誉教授 戸 莉義次

地力とケミカル・コントロール	3
----------------------	---

農林省農林水産技術会議事務局

研究参事官 川井一之

年 頭 初 感	4
---------------	---

農薬工業会会長 吉田 豊

昭和46年度水稻作関係除草剤・	
-----------------	--

生育調節剤試験成績概要	
-------------	--

財団法人 日本植物調節剤研究協会

1. 供試除草剤の動向	6
-------------------	---

2. 試験結果の概要	6
------------------	---

第1表 昭和46年度水稻作関係	
-----------------	--

供試除草剤成分一覧表	6
------------------	---

第2表 昭和46年度水稻作関係	
-----------------	--

除草剤判定表	16
--------------	----

第3表 昭和46年度水稻実用化	
-----------------	--

除草剤使用基準一覧表	19
------------------	----

財団法人 日本植物調節剤研究協会

新登録除草剤一覧表	29
-----------------	----

農林省農政局植物防疫課

植調協会だより	30
---------------	----

植調表紙図案募集 〆 切2月末日
採用分につきましては、薄謝を進呈いたします。

雑草防除は生態学の粹

東京大学名誉教授 戸荏 義次

従来の作物試験では年次や場所によって試験結果が異なっており、理論や法則を考察するのに難があった。この難点を解消するために、環境条件を制御するファイトロンが考案され、温度や光などを一定にして作物を栽培すれば、誰が何処で試みても条件さえ同じなら同一の結果が得られるようになった。このようにして育った作物を対象にして調査された作物の生育や行動、具体的には養分吸収、水分生理、形態形成、同化呼吸など何れも再現性あるものとして、一般に納得し得る結果が導き出されるものである。

ファイトロンによって環境条件を一定にし、かつ作物生育に好適の条件を与えること自体が必ずしも容易ではないが、ともかくその条件さえ附与するなら、作物生育が一定となって、作物研究が飛躍的に進むことは確実であり、この種の装置が普及しているが、今後ともかゝる方向に沿っての研究が拡充されるであろう。

しかし、ここで大切なのは、作物の多くは自然環境の影響を受けて生育するという点である。自然環境は年により地域により異なっており再現性はない。つまり、作物の実際の生育は制御条件下のそれとは決して同一ではないのである。したがって、ファイトロンによる再現性ある研究と同時に、自然環境の下での作物の生育や行動を観察し測定して、作物生育の、あるいは作物と自然環境との間の法則を見出していく研究が必要である。

特定の条件下の作物生育に関し、再現可能な方法によって行なう研究が実験植物学の範ちゅうに属するのに対し、自然の再現不能の条件下での作物行動を調べる研究を生態学的研究という。農学においては、生態学的手法による研究が特に重要であるにも拘わらず、著しくおくれしている。その理由は簡単で、自然環境の要素ならびにその変化が無限に多く、かつ複雑で、手のつけようがないかに見えるからである。

しかし、芸術家が紫色に山を塗り、一つの線を強調することによって、風景全体を見事にまとめるように、万根錯綜する自然界の環境要素も強調すべき要因を捉え、再現性のない環境下での法則を見出だすことは不可能ではない。

雑草防除の研究において、作用特性を調べるのは実験植物学であり、その重要さは疑わない。同時に除草剤の地中移動に関する土壌の性質、地下水位、降雨の関係などを適確に調べて、薬剤の作用特性の発現を明確にする生態学的研究の水準向上を計る必要がある。さらに雑草防除は、雑草と作物、跡作への影響なども加わって、その複雑なこと類をみない。水田あるいは畑の社会学とも称すべき難解のなかで、単純極まる措置を確定するのであるから、雑草防除研究こそ、生態学の粹と云うべきであり、並たいていの努力でないことを覚悟して立向うべきものと思う。

地力とケミカル・コントロール

農林省農林水産技術会議事務局・研究参事官 川井 一之

最近あるジャーナリストの集会で、ある大記者からこんな質問をぶつけられた。いや、質問などという生まやさしいものではなく、明らかにそれは、するどい批判的意見であり、譴責にも似た強い語調を帯びたものであった。つまり、こうである

「最近の農林省は、多農薬・多除草剤・多肥料などというような偏った農業技術をおし進めているが、それが土壌の活性を損ない、土壌の生命を殺しているという事実を、どのていど認識し、どういう反省をしているのか。

農民のなかには、こう云って訴えているものがあるのだ、近ごろの土壌には、ワラなどの有機物を分解する力が失なわれてしまっている、と。こういう問題を、農林省はどのていど科学的に把んでいるのか。

ひところ農林省では、作物増産というと“地力”と声を大にして云っていたが、最近の農林省や農林行政の中味をみても、“地力”という考え方は、すっかり姿を消してしまっている。それどころか、地力を殺すような農業技術を推奨すらしているではないか。

あなたは、農林行政のなかでも研究行政を担っている立場にあるが、こういう問題についてはどう考え、どこに責任があると思うか」というわけである。

さすがに老獺？ 大記者ともなると、同じ質問でもレーチェル・カーソンばかりのドスを効

かせ、哲学的な背景を滲ませてくるから大したものだ。とくに最近では、エコロジーとかエコシステムという考え方が普及したので、質問にも、ついこのように社会生態学的なニュアンスが濃厚にこもってくることになる。

それは、昨年の米の大冷害を分析するジャーナリストのシンポジュームの席上で、ちょうど話が、地力のない水田ではとくに冷害がひどく現われたというくだりに及んだとき、突如として飛び出してきた質問であった。

これに対して私は、「現在、研究サイドとしては、失なわれてしまった地力を単に回復するばかりでなく、これからの大規模機械化技術あるいは理化学的管理技術に対応して、生産力をより合理的にサポートするには、“新しい地力”という概念と手法とを確立する必要があると考えているが、ここでいう新しい地力とは……」云々というわけで、解ったような解らないような議論で相手を煙に巻きながら、ようやく執拗な追及の鋒先をそらしたわけであるが、そのとき私はフト、あのP C P事件とかブラスチン事件の記憶が脳裏を掠めていたことを覚えている。

ところで、ケミカル・コントロールの研究開発をされている皆さん方だったら、上記の老獺な大記者の質問に対していかなる科学的根拠をもって説明し、また彼の質問からいかなる問題を感じとれることがあろうか。いちど機会があれば、諸賢の卒直など意見を聞きたいという

感じがしないでもない。

年 頭 所 感

農薬工業会会長 吉田 豊

「農業生産の安定と国民の健康の保護に資するとともに、国民の生活環境の保全に寄与することを目的とする」と敢えて掲げた農薬取締法が制定され、それに従って運営されて一年になった。しかしこの一年間の報道関係は、無農薬農業をとりあげるなど農業そのもののあり方を問う表現がめだってきた。

所謂、一般公害の一連として農薬の薬害がとりあげられた。これは、新しい技術と知識により今までには感知し得なかった微量の分野まで施用上の問題点があることを新知識として次々に公表されて、われわれはその改善に努力しなければならない義務を負わされている。

農業の中で病虫害の克復は、その歴史の中にいろいろの経験を積んでいる。栽培方法と耕作技術とを結びつけて農業は各種各様に行なわれているが、その効果は直接的にかつ、はっきりと現われないので、重視され難いとか。生物による防除法は、良い方法であるが制限された性質のもので、弱い面をもっているために異った見解が示されたりした。戦後25年間では、化学薬品がその効果が最も明確で豊富に使用されてきた。しかしこれとても高い選択性、副作用、残留性その他の諸欠点を伴わない完全なものとは現われていない。

これらのことから、如何にして、それぞれ長

短のある技術の長所を総合的に利用して効果をあげるかが当面の課題となる。

1ドルが308円という円貨切替えにより露呈されたことは、一言でいえば供給過剰により世界中がこれまでにない混乱に巻き込まれたといえよう。

鉱工業産品が渦をまいて流動している。その中にあって、農業生産物も例外ではあり得ない。ただ農業は各国個有の環境条件におかれているために、鉱工業産品とは異なった施策により、多かれ少かれ国別に保護育成されている。とはいっても大勢は避けることが難しい。農業自体が他の産業と同じように転換期の対応策を確立すべき時期ではないだろうか。

「将来の資源問題」の報告書にも、人間尊重の資源利用を掲げている。一定の法則に従った適地適産で国際競争力を高める農業を指向している。この「期待される農村、農業」に関連するわれわれ業界として負うべき責務を新たに痛感し、一層奮起したい。

植物を守る技術、農業に有用な役割を果す技術の擁立には、常に進歩改良が必要であるが、しかし極言にもひとしい無農薬農業論は、たやすく現実化するとは思わない。消費者より「農薬を使用する農民が悪い」とかいわれている生産者と消費者との対立が薄らぐ年であることを祈りたい。

昭和46年度水稻作関係除草剤

試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和46年度水稻作用除草剤の試験成績検討会が、昭和46年12月15日～17日の3日間、東京（日本都市センター）において開催されたので、ここにその結果の概要について紹介する。

1. 供試除草剤の動向

本年度供試された薬剤は、移植栽培本田用92薬剤、稚苗移植用38薬剤、苗代用13薬剤、湛水直播用11薬剤、乾田直播用13薬剤、畦畔用6薬剤、休耕田用11薬剤、合計184薬剤であった。

供試薬剤の傾向をみると、移植栽培本田用が著しく減少したのに対し、稚苗移植用が増加した。これは、今後の水稻作栽培の大規模化にともない、省力化の方法として稚苗の機械移植栽培の普及を見こんでいるためであろうと思う。

次に、注目される点は、除草剤の混合剤化がとくに目立ち、従前の土壌処理剤と茎葉処理剤との組み合わせから、土壌処理剤の混合剤化の傾向がみられる。利用場面、作用特性の面からみると、① 処理適期幅が広い。② 雑草種類

間の選択殺草性が小さく、一年生雑草と多年生雑草の同時防除。③ 殺草効果の持続性が長い。④ 他目的農薬の近接散布が可能。などの点に適する除草剤の開発が盛んであることが注目される。

また、植代時土壌混和处理剤が、省力化とともに効力の持続性・安定化の点で注目され、有効な除草剤も出現している。

2. 試験結果の概要

本年度供試された除草剤の成分を示すと、第1表の通りである。

それらのなかで、実用化に移されたものは、移植本田用52薬剤、稚苗移植用（機械移植）20薬剤、苗代用6薬剤、湛水直播用5薬剤、乾田直播用7薬剤、畦畔用5薬剤、休耕田用2薬剤の合計97薬剤であった。適用性試験の判定結果は、第2表に示した。

実用化の認められた除草剤の使用基準は、第3表に示す通りである。

なお、詳細については、昭和46年度水稻作関係除草剤適用性試験成績概要を参照されたい。

〈第1表〉 昭和46年度水稻作関係供試除草剤成分一覧表

I-2. 移植本田一植代前混和

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	G - 3 1 5	乳 剤	5-ターシャリイブチル-3-(2,4-ジクロル-5-イソプロピルオキシフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール-2-オン 1.2%	日 産 化 学
2	G - 3 1 5	粒 剤	同 上 2%	同 上
3	B - 3 0 1 5 (ベンチオカーブ)	粒 剤	S-(4-クロルベンジル)N, N-ジエチルチオールカーバメート 10%	クミアイ化学
4	BM - 3 0 1 5	粒 剤	ベンチオカーブ CNP 7% 6%	クミアイ化学 三井東圧化学
5	N I P	乳 剤	2,4-ジクロルフエニル-4-ニトロフエニルエーテル 2.5%	三 洋 貿 易 東 京 有 機
6	X - 5 2	粒 剤	2,4-ジクロルフエニル-3'-メトキシ-4'-ニトロフエニルエーテル 7%	X-52協議会 (石原産業)
7	X - 5 2 化成肥料		同 上 N, P, K 0.7% 12+18+16%	同 上

一耕起前一茎葉処理

1	パ ラ コ ー ト	液 剤	1,1'-ジメチル-4,4'-ビリウムジクロリド 2.4%	日 本 農 薬 武 田 薬 品
---	-----------	-----	----------------------------------	--------------------

I-2. 移植本田一移植前後土壌処理

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	B - 3 0 1 5	粒 剤	ベンチオカーブ 10%	クミアイ化学
2	BM - 3 0 1 5	粒 剤	ベンチオカーブ CNP 7% 6%	クミアイ化学 三井東圧化学
3	G - 3 1 5	粒 剤	G-315 2%	日 産 化 学
4	G - 3 1 5 B	粒 剤	G-315 1.5% ブタクロール(2-クロル-2',6'-ジエチル-N-(ブトキシメチル)アセトアニリド) 3%	日 産 化 学
5	X - 5 2	粒 剤	X-52 7%	X-52協議会 (石原産業)
6	N I P - 1 2	粒 剤	N I P 1.2%	三 洋 貿 易 東 京 有 機
7	K H - 1 5 8	粒 剤	N I P A C N (モグトン) 5.1% 7.2%	兼 商
8	トリフルラリン A	粒 剤	α, α, α -トリフルオル-2,6-ジニトロN, N-ジプロピル-パラートルイジン 3%	シオノギ製薬
9	S S T - 1	粒 剤	N I P SK-23 (新規化合物) 1.4%	三 洋 貿 易 東 京 有 機 昭 和 電 工

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
10	S S T - 2	粒 剤	N I P SK-23 } 14 %	三 洋 貿 易 東 京 有 機 昭 和 電 工
11	ブタクロール 2.5	粒 剤	2-クロール-2', 6'-ジエチル-N-(ブトキシメチル) アセトアニリド 2.5 %	三菱モンサント
12	ブタクロール (5.0)	粒 剤	同 上 5 %	同 上
13	M O - 1 8	粒 剤	2,4,6-トリクロール-4'-ニトロジフェニルエーテル 18 %	三 井 東 圧

1-3. 移植本田—移植後土壌処理（ノビエ 1.5 葉以下）

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	B - 3 0 1 5	粒 剤	ベンチオカーブ 10 %	クミアイ化学
2	B M - 3 0 1 5	粒 剤	ベンチオカーブ CNP 6 %	クミアイ化学 三井東圧化学
3	G - 3 1 5	粒 剤	G-315 12 %	日 産 化 学
4	G - 3 1 5	粒 剤	G-315 2 %	同 上
5	G - 3 1 5 B	粒 剤	G-315 1.5 % ブタクロール 3 %	同 上
6	M T - 2 0 3	粒 剤	CNP 9 % MT-103（カーバメイト系） 7 %	三井東圧化学
7	M T - 3 0 3	粒 剤	CNP MT-101（アニライド系） 7 % MT-103（カーバメイト系） 7 %	同 上
8	X - 5 2	粒 剤	X-52 7 %	X-52協議会 （石原産業）
9	K H - 1 5 9	粒 剤	ACN（モゲトン） 5.2 % N I P 5.1 % MCPB 0.72 %	兼 商
10	K H - 1 5 8	粒 剤	ACN（モゲトン） 7.2 % N I P 5.1 %	兼 商
11	ブタクロール 5.0	粒 剤	2-クロール-2', 6'-ジエチル-N-(ブトキシメチル) アセトアニリド 5 %	ブタール普及会 〔三菱モンサ ント, 三共 日農, 北興〕
12	シメトリン・ MCPB	粒 剤	シメトリン 1.5 % MCPB 1 %	日 本 化 薬
13	モリネート A	粒 剤	モリネート 6 % 既知化合物 6 %	オールドラム研究会 〔スタウプアー 八洲, トー メン, 三笠〕
14	Y K - 4 8 7 6	粒 剤	N-エチルクロロアセトアニリド 7 %	八 洲 化 学 科 研 化 学
15	トリフルラリン A	粒 剤	トリフルラリン 3 %	シオノギ製薬
16	T H - 6 2 M	粒 剤	ペノキサゾール（2-（2-クロロベンジル）-5-プロ ビル-1,3,4-オキサジアゾール） 5 % CNP 5 %	武 田 薬 品
17	CNP・MPP	粒 剤	CNP 9 % MPP：ジメチル-4-（メチルチオ）-3-メチルフェ ニルチオホスフェート 5 %	八 洲 化 学

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
18	T O C - 6 0 4	粒 剤	N I P 7 % 殺虫成分 4 %	東 京 有 機
19	S - 9 2	粒 剤	2,4-ジクロロ-4'-シアノジフェニルエーテル 15 %	住 友 化 学
20	S - 5 9 - D	粒 剤	2,6-ジ第3ブチル-4-メチルフェニル-N-メチルカーバメイト (S-59) 15 % S-92 10 %	同 上
21	S - 7 1	乳 剤	有機リン系化合物 25 %	同 上
22	S - 8 0	乳 剤	2,4,6-トリクロロ-4'-シアノジフェニルエーテル 25 %	同 上
23	S - 6 5 - K	粒 剤	2,4-ジクロロフェノキシアクリル酸シクロヘキシルエステル (S45865) 7 % 3-クロロ-2-アミノ-1,4-ナフトキノン (06K) 7 %	住 友 化 学 兼 商
24	H Z - 1 4	粒 剤	フラン系化合物 6 %	メルク農薬研究会 「エーメルク」 大日本除虫 菊, 武田薬 品
25	K W - 1 0	粒 剤	N I P 7 % H Z - 1 4 6 %	大日本除虫菊
26	S K - 2 3	水和剤	新規化合物 10 %	昭 和 電 工
27	S K - 6 3	水和剤	新規化合物 10 %	同 上
28	S S T - 1	粒 剤	N I P } S K - 2 3 } 14 %	三 洋 貿 易 東 京 有 機 昭 和 電 工
29	S S T - 2	粒 剤	N I P } S K - 2 3 } 14 %	同 上
30	H W - 7 2	乳 剤	ジフェニルエーテル系 25 %	保 土 谷 化 学
31	H W - 7 2	粒 剤	ジフェニルエーテル系 5 %	同 上
32	H W - 8 2	粒 剤	H W - 7 2 5 % X (新規化合物) 6 %	同 上
33	H W - 6 2	粒 剤	P C P - Na 20 % X (新規化合物) 7 %	同 上
34	Dowco 273	粒 剤	新規化合物	ダウ・ケミカル
35	Dowco 221-K	粒 剤	α -(2,2,2-トリクロロエチル)スチレン (Dowco 221) 2.5 % Dowco 273	同 上
36	N C - 2 3	水和剤	Siduron 50 %	日本カーバイド
37	N C - 2 4	乳 剤	新規化合物	同 上
38	N C - 2 5	粒 剤	N C - 2 4 2 % α (既知化合物) 2 %	
39	N C - 2 6	粒 剤	N C - 2 4 2 % β (既知化合物) 5 %	同 上
40	N C - 2 7	粒 剤	N I P との三種混合 9.7 %	同 上
41	N C - 2 8	粒 剤	N I P 4 % リニユロン 0.5 % シデユロン 5 %	同 上

1-4. 移植本田一茎葉兼土壌処理

No	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	B-3015S	粒 剤	ベンチオカーブ 7% シメトリン 1.5%	クミアイ化学
2	NH6967S	粒 剤	2,4-ジクロロフェニルビベリジニルカーボキシレート(フエノビレート) 5% シメトリン 1.5%	日 本 農 薬
3	NH-703	粒 剤	ベンチオカーブ 10% MCPB 0.7%	日 本 農 薬
4	NH6967・ S・MCPB	粒 剤	フエノビレート(NH6967) 4% シメトリン 2.5% MCPB 0.7%	同 上
5	MCC・MCPB	粒 剤	メチル-N-(3,4-ジクロロフェニル)カーバメイト(MCC) 20% MCPB 0.9%	スエップ普及会 〔日産, 日農〕 〔北興〕
6	ブタクロール	粒 剤	ブタクロール 5%	ブタール普及会 〔三菱モンサント, 三共〕 〔日農, 北興〕
7	ブタクロールS	粒 剤	ブタクロール 4% シメトリン 1.3%	ブタエース普及会 〔三菱モンサント, 三共〕 〔日農〕
8	CP-19H	粒 剤	ブタクロール 4% フエノチオール(2-メチル-4-クロロフエノキシチオ酢酸-S-エチルエステル) 0.6%	CP-19H 研究会 〔三菱モンサント, 北興〕 化学
9	アミプロホスS	粒 剤	O-エチル-O-(2-ニトロ-4-メチルフェニル)N-イソプロピルチオ)フオスホロアミデート(アミプロホス) 7% シメトリン 1.5%	日本特殊農薬
10	アミプロホスMCPB	粒 剤	アミプロホス 7% MCPB 1%	同 上
11	MT-303Z	粒 剤	CNP 7% MT-101 7% MT-103 7%	三井東圧化学
12	X-52	粒 剤	X-52 7%	X-52協議会 (石原産業)
13	X-52S	粒 剤	X-52 5% シメトリン 1.5%	同 上
14	X-52B	粒 剤	X-52 5% アニライド系化合物 3%	同 上
15	X-52T	粒 剤	X-52 5% トリフルラリン 2.5%	同 上
16	モリネートS	粒 剤	モリネート(S-エチル-ヘキサヒドロ-1H-アゼピン-1-カーボチオエート) 6% シメトリン 1.5%	オルドラム研究会 〔スタウファー〕 トーマン, 三笠, 八洲 化学

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
17	モリネート S 20	粒 剤	モリネート 6 % シメトリン 2 %	オールドラム研究会 「スタウプアー トーメン, 三笠, 八洲 化学」
18	モリネート S M	粒 剤	モリネート 8 % シメトリン 1.5 % MCPB 0.8 %	同 上
19	モリネート M	粒 剤	モリネート 6 % MCPB 0.8 %	同 上
20	モリネート S ダイアジノン	粒 剤	モリネート 6 % シメトリン 1.5 % ダイアジノン 5 %	同 上
21	D C P A ベンチオカーブ	粒 剤	DCPA 17 % ベンチオカーブ 7 %	クミアイ化学 保土谷化学
22	T H - 6 2 D	粒 剤	ペノキサゾール 5 % シメトリン 1.5 %	武 田 薬 品
23	T H - 6 2 M	粒 剤	ペノキサゾール 5 % CNP 5 %	同 上
24	シメトリン・ MCPB 3.5	粒 剤	シメトリン 2.5 % MCPB 1 %	日 本 化 薬
25	S - 5 9 - M	粒 剤	2,6-ジ第3ブチル-4-メチルフェニル-N-メチルカ ーバメイト (S-4159) 15 % MCPエチル 0.5 %	住 友 化 学
26	A - 1 4 0 4	水和剤	2-メチルチオ-4-イソプロピルアミノ-6-(γ-メト キシプロピルアミノ)-S-トリアジン 25 %	ガイギーサービス
27	J - 8 8	乳 剤	MCP系化合物 20 %	石 原 産 業
28	J X - 8 8	粒 剤	X-52 5 % J-88 1.2 %	同 上
29	BENZOMARC	粒 剤	urea系化合物 5 %	S C E T I (国際技術交易)
30	O K - 7 0 1	粒 粒	インダン誘導体 10 %	大 塚 化 学
31	O K - 7 0 2	粒 剤	OK-701 6 % シメトリン 1.5 %	同 上
32	O K - 7 0 3	粒 剤	インダン誘導体 10 % MCPB 0.8 %	同 上
33	S K H - 1 1	粒 剤	カーバメイト系化合物	シエル化学
34	C G 7-1 0 1	粒 剤	有機リン系化合物 7.5 %	日本チバガイギー
35	C G 7-1 0 2	粒 剤	有機リン系化合物 7.5 %	同 上
36	C G - 1 0 1	粒 剤	CG7101 6 % CG7103 1.5 %	同 上
37	C G - 1 0 2	粒 剤	CG7102 6 % CG7103 1.5 %	同 上
38	H Z - 1 4	粒 剤	フラン系化合物 6 %	メルク農業研究会 「エーメルク 大日本除虫 菊, 武田薬 品」
39	N C - 3 1 0	粒 剤	モリネート 6 % ニトラリン (SD11831) 2 % MCP-Na 0.8 %	日本カーバイド

Ⅰ－5. 移植本田一適用時期拡大（体係）

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	B－3015S	粒 剤	ベンチオカーブ 7% シメトリン 1.5%	クミアイ化学
2	NH－6967S	粒 剤	フェノビレート（NH6967） 5% シメトリン 1.5%	日 本 農 薬
3	NH－703	粒 剤	ベンチオカーブ 10% MCPB 0.7%	同 上
4	HOK－7505A	粒 剤	シメトリン 2.5% フェノチオール（HOK7501） 0.7%	北 興 化 学
5	トリフルラリン・ MCPAN	粒 剤	トリフルラリン 1.3% MCPAN 1.3%	石 原 産 業
6	SSH－23	粒 剤	トリフルラリン 1.4% MCPエチル 0.7%	シオノギ製薬
7	X－52	粒 剤	X－52 7%	X－52協議会
8	T O P E	粒 剤	メタトリル－4－ニトロフェニルエーテル 10%	三 洋 貿 易 東 京 有 機
9	N I P	粒 剤	NIP 7%	同 上
10	モリネートS	粒 剤	モリネート 6% シメトリン 1.5%	オルドラム研究会

Ⅱ－1. 稚苗移植－土壌混和处理

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	G－315	乳 剤	5－ターシヤリイブチル－3－（2,4－ジクロル－5－イ ソプロピルオキシフェニル）1,3,4－オキサジアゾール－ 2－オン 12%	日 産 化 学
2	G－315	粒 剤	G－315 2%	同 上
3	B－3015	粒 剤	ベンチオカーブ 10%	クミアイ化学
4	BM－3015	粒 剤	ベンチオカーブ 7% CNP 6%	クミアイ化学 三井東圧化学
5	X－52	粒 剤	2,4－ジクロルフェニル－3'－メトキシ－4'－ニトロフェ ニルエーテル 7%	X－52協議会 （石原産業）
6	N I P	乳 剤	NIP 25%	三 洋 貿 易 東 京 有 機

Ⅱ－2. 稚苗移植－移植前後土壌処理

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	G－315	粒 剤	G－315 2%	日 産 化 学
2	B－3015	粒 剤	ベンチオカーブ 10%	クミアイ化学
3	BM－3015	粒 剤	ベンチオカーブ 7% CNP 6%	クミアイ化学 三井東圧化学
4	X－52	粒 剤	X－52 7%	X－52協議会
5	S－92	粒 剤	2,4－ジクロロ－4'－シアノジフェニルエーテル 15%	住 友 化 学
6	トリフルラリンA	粒 剤	トリフルラリン 3%	シオノギ製薬
7	ACN（モグトン）	粒 剤	2－アミノ－3－クロロナフトキノン 9%	兼 商
8	S S T－1	粒 剤	NIP 14% SK－23（新規化合物）}	三 洋 貿 易 東 京 有 機 昭 和 電 工

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
9	S S T - 3	粒 剤	SK-63 NIP 7 % 5 %	三 洋 貿 易 東 京 有 機
10	S S T - 4	粒 剤	SK-63 TOPE 7 % 6 %	同 上
11	N I P 5	粒 剤	NIP 5 %	東 京 有 機 三 洋 貿 易

Ⅱ - 3. 稚苗移植 - 移植後土壌処理 (ノビエ 1.5 葉以下)

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	G - 3 1 5	粒 剤	G-315 2 %	日 産 化 学
2	X - 5 2	粒 剤	X-52 7 %	X-52協議会
3	K H - 1 5 8	粒 剤	ACN (モゲトン) NIP 7.2 % 5.1 %	兼 商
4	T O P E	乳 剤	メタトリル-4-ニトロフェニルエーテル 2.5 %	東 京 有 機 三 洋 貿 易

Ⅱ - 4. 稚苗移植 - 茎葉兼土壌処理

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	B - 3 0 1 5 S	粒 剤	ベンチオカーブ シメトリン 7 % 1.5 %	クミアイ化学
2	X - 5 2 S	粒 剤	X-52 シメトリン 5 % 1.5 %	X-52協議会 (石原産業)
3	モリネート S	粒 剤	モリネート シメトリン 6 % 1.5 %	オールドラム研究会 「スタウファー トーマン, 三笠, 八洲」
4	ブタクロール S	粒 剤	ブタクロール シメトリン 4 % 1.3 %	ブタエース普及会 「三菱モンサ ント, 三共 日農」
5	DCPA・ベン チ オ カ ー ブ	粒 剤	DCPA ベンチオカーブ 1.7 % 7 %	クミアイ化学 保土谷化学
6	NH-6967・S	粒 剤	フエノビレート シメトリン 5 % 1.5 %	日 本 農 薬

Ⅱ - 5. 稚苗移植 - 適用時期拡大 (体系)

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	シメトリン 2.5	粒 剤	2-メチルチオ-4,6-ビス-エチルアミノ-S-トリ アジン 2.5 %	ギーボン普及会 (ガイギー)
2	プロメトリン・ MCPB	粒 剤	プロメトリン MCPB 1.5 % 1 %	日 本 化 薬
3	シメトリン・ MCPB	粒 剤	シメトリン MCPB 1.5 % 1 %	同 上
4	シメトリン・ MCPB 3.5	粒 剤 粒 剤	シメトリン MCPB 2.5 % 1 %	同 上
5	モリネート S	粒 剤	モリネート シメトリン 6 % 1.5 %	オールドラム研究会 「スタウファー トーマン, 三笠, 八洲」

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率	委託会社
6	S S H - 2 3	粒 剤	トリフルラリン M C P エチル 1.4 % 0.7 %	シオノギ製薬
7	B - 3 0 1 5 B	粒 剤	ベンチオカーブ シメトリン 7 % 1.5 %	クミアイ化学
8	N I P	粒 剤	N I P 7 %	東京有機 三洋貿易
9	X - 5 2	粒 剤	X - 5 2 7 %	X - 5 2 協議会
10	NH-6967・S	粒 剤	フェノビレート シメトリン 5 % 1.5 %	日本農薬

Ⅱ-1. 苗代一水苗代

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	G - 3 1 5	乳 剤	G - 3 1 5 12 %	日産化学
2	B - 3 0 1 5	粒 剤	ベンチオカーブ 10 %	クミアイ化学
3	B - 3 0 1 5	乳 剤	ベンチオカーブ 50 %	同 上
4	T O P E	乳 粒	メタトリル-4-ニトロフェニルエーテル 25 %	東京有機 三洋貿易
5	ACN (モグトン)	粒 剤	2-アミノ-3-クロロナフトキノン 9 %	兼 商

Ⅱ-2. 苗代一保温折衷苗代

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	B - 3 0 1 5	乳 剤	ベンチオカーブ 50 %	クミアイ化学
2	モリネート	乳 剤	S-エチル-ヘキサヒドロ-1H-アゼピン-1-カーボ チオエート 70 %	オルドラム研究会
3	モリネート	粒 剤	同 上 8 %	同 上

Ⅱ-3. 苗代一畑苗代

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	B - 3 0 1 5	乳 剤	ベンチオカーブ 50 %	クミアイ化学
2	D C P A (改 良)	乳 剤	3,4-ジクロロプロピオンアニリド 20 %	武田薬品
3	D C - 5 5	乳 剤	4-ターシャリイ-ブチル-2,6-ジメチル-3,5-ジニ トロアセトフェノン 20 %	大日本インキ 武田薬品 三笠化学 八洲化学
4	T O P E	乳 剤	メタトリル-4-ニトロフェニルエーテル 25 %	東京有機 三洋貿易

Ⅳ 満水直播

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	G - 3 1 5	乳 剤	G - 3 1 5 12 %	日産化学
2	S S T - 1	粒 剤	N I P S K - 2 3 14 %	三洋貿易 東京有機 昭和電工
3	B - 3 0 1 5	粒 剤	ベンチオカーブ 10 %	クミアイ化学
4	B - 3 0 1 5	乳 剤	ベンチオカーブ 50 %	同 上
5	X - 5 2	粒 剤	2,4-ジクロロフェニル-3'-メトキシ-4'-ニトロフェ ニルエーテル 7 %	X - 5 2 協議会 (石原産業)

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
6	モ リ ネ ー ト	粒 剤	S-エチルヘキサヒドロ-1H-アゼピン-1-カーボ チオエート 8 %	オルドラム研究会 〔スタウファー トーマン, 八洲, 三笠〕
7	T O P E	乳 剤	メタトリル-4-ニトロフェニルエーテル 25 %	東 京 有 機 三 洋 貿 易
8	D C P A ・ ベンチオカーブ	粒 剤	DCPA 17 % ベンチオカーブ 7 %	クミアイ化学 保 土 谷 化学
9	D M N P ・ ベンチオカーブ	乳 剤	DMNP 3,5-ジメチル-4'-ニトロジフェニルエー テル 20 % ベンチオカーブ 20 %	保 土 谷 化学
10	B M - 3 0 1 5	粒 剤	ベンチオカーブ 7 % CNP 6 %	クミアイ化学 三井東圧化学
11	B - 3 0 1 5 S	粒 剤	ベンチオカーブ 7 % シメトリン 1.5 %	クミアイ化学

V 乾田直播

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	G - 3 1 5	水和剤	G-315 50 %	日 産 化 学
2	アミプロホス	乳 剤	O-エチル-O-(2-ニトロ-4-メチルフェニル)- N-イソプロピルチオノフオスホロアミデート 50 %	日本特殊農薬
3	B - 3 0 1 5	乳 剤	ベンチオカーブ 50 %	クミアイ化学
4	B - 3 0 1 5 プロメトリン	乳 剤	ベンチオカーブ 50 % プロメトリン 5 %	クミアイ化学 日 本 化 薬
5	X - 5 2	水和剤	2,4-ジクロロフェニル-3'-メトキシ-4'-ニトロフェ ニルエーテル 40 %	X-52協議会 (石原産業)
6	SAP乳十 X-52水和	—	SAP: 0.0-ジイソプロピル-2-(ベンゼンスルホン アミド)エチレジチオホスフエート 50 % X-52 40 %	日 本 農 薬
7	モ リ ネ ー ト	乳 剤	S-エチルヘキサヒドロ-1H-アゼピン-1-カーボ チオエート 70 %	オルドラム研究会 〔スタウファー トーマン, 三笠, 八洲〕
8	M O - 9	粒 剤	CNP 9 %	三井東圧化学
9	B - 3 0 1 5 S	粒 剤	ベンチオカーブ 7 % シメトリン 1.5 %	クミアイ化学
10	B M - 3 0 1 5	粒 剤	ベンチオカーブ 7 % CNP 6 %	クミアイ化学 三井東圧化学
11	モ リ ネ ー ト S	粒 剤	モリネート 6 % シメトリン 1.5 %	オルドラム研究会
12	D C P A 改良	乳 剤	3,4-ジクロロプロピオンアニリド 20 %	武 田 薬 品
13	N I P	乳 剤	NIP 25 %	東 京 有 機 三 洋 貿 易

VI 畦畔雑草

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	A T A ・ D C M U	水和剤	A T A : 3-アミノ-1,2,4-トリアゾール 37.5 % DCMU : 3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメ チルウレア 37.5 %	石 原 産 業 丸 和 物 産

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
2	D P A ・ M C P ・ D C M U	水和剤	D P A (2,2-ジクロロプロピオン酸ナトリウム 4 5 % M C P 1 5 % D C M U 1 5 %	石 原 産 業
3	D C M U	水和剤	2- (3,4-ジクロロフェニル) - 1,1-ジメチル尿素 7 8.5 %	デユボン フアーイースト
4	塩 素 酸 ソ ー ダ	水溶剤	N a C l O ₃ 9 8.5 %	昭 和 電 工
5	D P A	水溶剤	D P A 8 5 %	ダウボン研究会
6	D P A ・ D C M U	水和剤	D P A 5 6.2 % D C M U 1 8.8 %	石 原 産 業

Ⅶ 休 耕 田

№	薬 剤 名	剤 型	有効成分および成分含有率	委託会社
1	A T A ・ D C M U	水溶剤	A T A 3 7.5 % D C M U 3 7.5 %	石 原 産 業 丸 和 物 産
2	D P A ・ D C M U	水和剤	D P A 5 6.2 % D C M U 1 8.8 %	石 原 産 業
3	D P A ・ M C P D C M U	水和剤	D P A 4 5 % M C P 1 5 % D C M U 1 5 %	同 上
4	2, 4 P A A T A	水溶剤	2, 4 P A 6 0 % A T A 2 8 %	2, 4-D協議会 (石原, 日産)
5	2, 4 P A ・ A T A ・ D P A	水溶剤	2, 4 P A 2 7 % A T A 1 7 % D P A 4 1 %	同 上
6	D C M U	水和剤	D C M U 7 8.5 %	デユボン・ フアーイースト
7	塩 素 酸 ソ ー ダ	粉 剤	N a C l O ₃ 7 0 %	昭 和 電 工
8	塩 素 酸 ソ ー ダ	水溶剤	同 上 9 8.5 %	同 上
9	D C B N	粒 剤	D C B N 3 %	日本カーバイド
10	P C P ・ M C P ・ D C B N	粒 剤	P C P - C a 3.0 % M C P - N a 0.8 % D C B N 0.7 5 %	トリサイト普及会 〔 日本カーバ イド, 北興 中外 〕
11	N C - 3 0 5	水和剤	A T A 5 6 % D C M U 2 7 %	日本カーバイド

＜第2表＞ 昭和46年度水稻作関係除草剤実用化判定表

	実	実・継	継 続	継 続 ?	中 止
I-1. 移植土壌混和		G-315 乳 G-315 粒 B-3015 粒 BM-3015 粒	HIP 乳 X-52 粒 X52化成肥料		
耕起前—茎葉	パラコート 液 (ミズガヤツリ)		パラコート 液 (マツバイ)		
I-2. 移植本田—移植前後	B-3015 粒 トリフルラリンA粒	B-3015 粒 (ミズガヤツリ) BM-3015 粒 G-315 粒 X-52 粒 ブタクロール2.5 粒 MO-18 粒	KH-158 粒 SST-1 粒 ブタクロール50 粒		NIP12 粒
I-3. 移植本田—移植後土壌	B-3015 粒 BM-3015 粒 X-52 粒 KH-159 粒 シメトリン・MCPB 粒 YK-4876 粒 トリフルラリンA 粒 CNP・MPP 粒	G-315 粒 G-315B 粒 MT-203Z 粒 MT-303Z 粒 KH-159 粒 (ウリカワ) KH-158 粒 ブタクロール5.0 粒 TH-62M 粒	モリネートA 粒 S-92 粒 HZ-14 粒 KW-10 粒 SST-1 粒 SST-2 粒 HW-72 粒 HW-82 粒	TOC-604 粒 HW-62 粒	KH-159 粒 (ホタルイ)
I-4. 移植本田—茎葉兼土壌	B-3015S 粒 NH-6967S 粒 CP-19H 粒 シメトリン・MCPB3.5 粒	NH-703 粒 MCC・MCPB 粒 ブタクロールS 粒 アミプロホスS 粒 X-52S 粒 X-52B 粒 モリネートS 粒 モリネートSM 粒 モリネートM 粒 モリネートS 粒 ・ダイアジノン 粒 DCPA・ベン 粒 チオカーブ 粒 TH-62D 粒	NH-6967S 粒 ・MCPB 粒 ブタクロール 粒 アミプロホス 粒 ・MCPB 粒 MT-303Z 粒 モリネートS20 粒 S-59M 粒 OK-702 粒 OK-703 粒 CG-101 粒 CG-102 粒 HZ-14 粒 NC-310 粒	X-52T 粒 TH-62M 粒 JX-88 粒 ベンゾマルク 粒 SKH-11 粒	X-52 粒
I-5. 移植適用拡大(体系)		B-3015S 粒 NH-6967S 粒 NH-703 粒 HOK-7505A 粒 トリフルラリン・MCPAN 粒 SSH-23 粒 モリネートS 粒	X-52 粒 TOPE 粒 NIP 粒		

	実	実・継	継 続	継 続 ?	中 止
Ⅱ-1. 稚苗土壌 移植1和		G-315 乳 G-315 粒 G-315B 乳 B-3015 粒	X-52 粒	NIP 乳	
Ⅱ-2. 稚苗移 移植 植前 1後		G-315 粒 B-3015 粒 BM-3015 粒 X-52 粒	S-92 粒 ACN 粒 SST-1 粒 SST-3 粒 SST-4 粒	NIP-5 粒	トリフルラリンA 粒
Ⅱ-3. 稚苗移 移植後 土壌 1和		G-315 粒 X-52 粒 TOPE 乳 (点置)	KH-158 粒		
Ⅱ-4. 稚茎 苗葉 移兼 植土 1和		B-3015S 粒 モリネットS 粒 ブタクロールS 粒 DCPA・ベン チオカーブ 粒	X-52S 粒		
Ⅱ-5. 稚適 苗用 移時 植期 1拡 大		シメトリン2.5 粒 シメトリン 粒 ・MCPB 粒 モリネットS 粒 B-3015S 粒 NH-6967S粒	プロメトリン 粒 ・MCPB 粒 シメトリン・MC 粒 PB3.5 粒 SSH-23 粒 NIP 粒	X-52 粒	
Ⅲ-1. 苗水 代苗 1代		TOPE 乳 (点置) ACN 粒 (モ類)	G-315 乳 B-3015 粒 B-3015 乳		
Ⅲ-2. 苗保 代温 1折 代			B-3015 乳 モリネット 乳 モリネット 粒		
Ⅲ-3. 苗畑 代苗 1代	B-3015 乳 DCPA改良 乳 TOPE 乳	DC-55 乳			
Ⅳ 湛 水 直 播		B-3015 粒 B-3015 乳 モリネット 粒 DCPA・ベン チオカーブ 粒 B-3015 粒	G-315 乳 X-52 粒 TOPE 乳 (点置) DMNP・ベン チオカーブ 乳 B-3015S 粒		SST-1 粒

	実	実・継	継 続	継 続 ?	中 止
V 乾 田 直 播	MO-9 粒 B-3015S 粒 BM-3015 粒	アミプロホス 乳 B-3015 乳 〔B-3015・ブ ロメトリン 乳 DCPA改良 乳	G-315 水和 X-52 水和 〔SAP 乳 +X-52 水和 モリネートX 乳 モリネートS 粒		
刈 畦 畔 雑 草	ATA・DCMU水和	〔DPA・MCP・ DCMU 水和 DCMU 水和 DPA 水和 DPA・DCMU水和		塩素酸ソーダ水溶	
畝 休 耕 田	ATA・DCMU水和 〔PCP・MCP 粒 ・DCBN		DPA・DCMU水和 〔2,4PA・ATA 水溶 ・DPA 水和 DCMU 水和 塩素酸ソーダ 粉 塩素酸ソーダ 水溶 DCBN 粒 NC-305 水和		2,4PA・ATA水溶

〔その他作用特性の解明〕

I 移植栽培本田

I-1 土壌混和

G-315乳, B-3015粒, BM-3015粒, NIP乳, X-52粒, パラコート液(マツバイ, ミズギャツリ)

I-2 移植前後

B-3015粒, G-315粒, X-52粒, SST-1粒, SST-2粒, SST-3粒, SST-4粒, ブタクロール2.5粒, ブタクロール5.0粒, X-52B粒, MO-18粒, NK-15286水和, NK-16049水和

I-3 移植後土壌

モリネートA粒, YK-4876粒, S-92粒, S-59D粒, S-71乳, S-80乳, S-65K粒, HZ-14粒, KW-10粒, SK-23水和, SK-63水和, SST-1粒, HW-72乳, HW-72粒, HW-82粒, HW-62粒, Dowco 273粒, Dowco 221+K粒, NC-23水和, NC-24水和, NC-25粒, NC-26粒, NC-27粒, NC28粒, HOE-2710粒

I-4 莖葉兼土壌

NH-6967S・MCPB粒, X-52粒, X-52B粒, X-52T粒, *モリネートS粒, モリネートS20粒, モリネートSM粒, *DCPA・ベンチオカーブ粒, *TH-62粒, *TH-62D粒, *TH-62M, ▲S-59M粒, A-1404水和, J-88乳, JX-88粒, Benzomarc粒, OK-701粒, OK-702粒, OK-703粒, SKH-11粒, °CG-7101水和, °CG-7102水和, °CG-7103水和, CG-101粒, CG-102粒, アミプロホスS粒, アミプロホスMCPB粒, MT-303Z粒

Ⅱ 稚苗移植

Ⅱ-1 土壌混和

* G-315B乳

Ⅱ-2 移植前後

* B-3015粒, BM-3015粒, SST-3粒, SST-4粒

Ⅱ-3 移植後土壌

TH-62M粒

Ⅱ-4 茎葉兼土壌

* B-3015S粒, NH6967S粒

Ⅲ 苗代

* モリネート乳, * DCPA(改良)乳

Ⅳ 湛水直播

B-3015粒, B-3015乳, X-52粒, モリネート粒

Ⅴ 乾田直播

B-3015乳

Ⅵ 畦畔

DPA水溶

* 要因解析 • 作A ▲作B, 要因解析

＜第3表＞ 昭和46年度水稻実用化除草剤使用基準一覧表

	薬剤名	処理法	処理時期	使用量 (製品g/a)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
Ⅰ-1. 移植本田 土壌混和	G-315乳剤	土壌混和	植代時～植代直後 〔田植前〕 〔1～3日〕	50～66 (6～8)	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田は除く〕 〔黒色火山土壌は除く〕	普通期全域 および温暖地の早期栽培	1.混和時水深3～5cm 2.混和深度2～3cm
	G-315粒剤	土壌混和	植代時 〔田植前〕 〔1～3日〕	300～400	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田は除く〕	寒冷地以西普通期	1.混和時水深3～5cm 2.混和深度2～3cm
	B-3015粒剤	土壌混和	植代時 〔田植前〕 〔1～3日〕	400～600	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田は除く〕	寒冷地以西普通期	1.コナギ多発地での使用さける 2.混和時水深3～5cm 3.混和深2～3cm
	BM-3015 粒剤	土壌混和	植代時 〔田植前〕 〔1～3日〕	400～600	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田は除く〕	普通期全域	1.コナギ多発地は使用さける 2.混和時水深3～5cm 3.混和深度2～3cm 4.田植後極端な深水さける

※ シメトリン, シメトリン混合剤の使用上の注意

温暖地以西, とくに, 暖地では散布時が高温(30℃)である場合, または処理後, 数日以内に梅雨が明けると, 気温が急激に上昇する(最高気温がおよそ30℃)ので, 薬害発生の危険性が大きくなる。これらに, とくに, 左記の条件が重なった場合には, 危険性が一層大きくなるので, そのような条件下では, 使用をさける。

- 1) 水稻の条件 ① 軟弱苗 ② 苗の活着が不充分なとき
- 2) 水田の条件 ① 砂質の土壌 ② 漏水の大きい水田および透水不良田 ③ 強選元田および未熟有機物多用田 ④ 天水田
- 3) 水管理 ① 2cm程度以下の浅水および7～8cm以上の深水 ② 整地が不均平な水田

	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使用上の注意
耕起前 ― 茎 葉	パラコート(ミズガヤツリ)液	茎葉処理	発生盛期～発生終期	30～40cc	全 土 壤	温暖地以西 田植前のミズガヤツリが発生揃になる 一毛作田	1.散布後5～6日以上たって耕起代掻する 2.処理時完全落水 3.発生揃後に散布する
I-2. 移 植 本 田 ― 移 植 前 後	B-3015粒剤	土 壤	田植前3日～田植後3日 〔ノビエ1.0Lまで〕	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 除く	全 域 普通期栽培 早期栽培	
	B-3015(ミズガヤツリ)粒剤	土 壤	田植前後 〔ミズガヤツリの出芽前〕	400～500	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 除く	寒冷地以西 普通期栽培 早期栽培	代掻き後出芽のミズガヤツリを対象とする
	BM-3015粒剤	土 壤	田植前3日～田植後3日	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 除く	寒冷地以西 普通期栽培 早期栽培	
	G-315粒剤	土 壤	植代～田植前1日	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 除く	普通期全域	
	X-52粒剤	土 壤	田植前3日～田植後3日 〔ヒエ1.0L以内〕	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 除く	全 域 普 通 期 〔温暖地早期栽培含む〕	1.健苗を使用すること
	トリフルランA粒剤	土 壤	田植前3日～田植後7日 〔ヒエ1.0Lまで〕	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 除く	普通期全域 〔カヤツリグサ、マツバイ多発地帯は〕 除く	
	ブタクロール2.5粒剤	土 壤	田植前3日～田植後3日	300	埴 土 ～ 埴 土 〔減水深2cm/日以下〕	寒冷地以西 普 通 期	1.広葉、雑草多発田はさける 2.健苗使用田に使用する
	MO-18粒剤	土 壤	田植前3日～田植後3日	300	埴 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 除く	寒冷地以西	
I-3. 移 植 本 田 移 ― 植 後 土 壤	B-3015粒剤	土 壤	田植後4日～田植後10日	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 除く	普通期全域 早期栽培	
	BM-3015粒剤	土 壤	田植後4日～田植後10日 〔ノビエ1.5Lまで〕	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 除く	全域の普通期 早期栽培	

	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使用 量 (製品g/a)	適 用 土 壌	適用地帯	使用上の注意
I-3. 移 植 本 田 ↓ 移 植 後 土 壌 (つづき)	G-315粒剤	土 壌	田植後3日 ～7日 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を 除く〕	普 通 期 全 域	
	G-315B粒剤	土 壌	田植後4～ 8日 〔ヒエ1.0 Lまで〕	300	埴 土 ～ 埴 土 〔減水深2cm/日 以下〕	普 通 期 全 域	
	MT-203Z 粒剤	土 壌	田植後4～ 8日 〔ヒエ1.0 Lまで〕	300～400	埴 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を 除く〕	温暖地以西 普 通 期	
	MT-303Z 粒剤	土 壌	田植後4～ 8日 〔ヒエ1.0 Lまで〕	300～400	埴 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を 除く〕	温暖地以西 普 通 期	
	X-52粒剤	土 壌	田植後4～ 8日 〔ヒエ1.0 Lまで〕	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を 除く〕	普 通 期 早期栽培	健苗を使用するこ と
	KH-159粒剤	土 壌	田植後4～ 7日 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300～400	埴 土 ～ 埴 土 〔減水深2cm/日 以下〕	寒地除く全 域 普通期栽培	1.苗が軟弱に育っ た時や低温時の 使用はさける 2.異常高温時の使 用はさける 3.深水での使用は さける
	KH-159 (ウリカワ)粒剤	土 壌	田植後4日 ～7日 〔ウリカワ 発生始〕	300～400	埴 土 ～ 埴 土 〔減水深2cm/日 以下〕	温 暖 地 中部以西	1.苗が軟弱に育っ た時や低温時で の使用はさける 2.異状高温時の使 用はさける。 3.深水での使用は さける
	KH-158粒剤	土 壌	田植後4日 ～7日 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300～400	埴 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を 除く〕	温 暖 地 中部以西	
	ブタクロール5.0 粒剤	土 壌	田植後4日 ～10日 〔ノビエ1. 5Lまで〕	300	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔減水深2cm/日 以下〕	普通期全域 早期栽培	1.広葉の多い地帯 でははやめに使 用する
	シメトリン・ MCPB粒剤	土 壌	田植後5日 ～13日 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300～400	埴 土 ～ 埴 土 (2cm/日以下)	温 暖 地 普 通 期	※

	薬剤名	処理法	処理時期	使用量 (製品g/a)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
I-3. 移植 本田 ↓ 移植後 土壌 (つづき)	YK-4876 粒剤	土壌	田植後4日 ～8日 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地以西 イネ科、カ ヤツリグサ の優せんす る圃場	広葉、マツバイに は効果がない
	トリフルラリンA 粒剤	土壌	田植後4日 ～7日 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田は 深く〕	普通期全域 カヤツリ グサ、マ ツバイ多 発地帯を 除く	
	TH-62M 粒剤	土壌	田植後4日 ～8日 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	温暖地 普通期	
	CNP・MPP 粒剤	土壌	田植前3日 ～後6日	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	CNPとM PPの使用 時期が合致 した地域	CNP粒剤に準ず る
I-4. 移植 本田 ↓ 茎葉兼 土壌	B-3015S 粒剤	茎葉兼土壌	田植後7日 ～15日 〔ノビエ2. 5Lまで 但し寒冷 地は2.0 Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	普通期栽培 早期栽培全 域	※
	NH-6967S 粒剤	茎葉兼土壌	田植後7日 ～12日 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300	壤土～埴土 〔極端な減水深の 大きい水田を除 く〕	寒地を除く 全域の普通 期(温暖地 の早期栽培 含む)	※
	NH-703 粒剤	茎葉兼土壌	田植後7日 ～12日 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300	砂壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	寒冷地以西 普通期	
	MCC・MCPB 粒剤	茎葉兼土壌	田植後10 日～12日 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300	砂壤土～埴土 (2cm/日以下)	寒地および 寒冷地北部	
	ブタクロールS 粒剤	茎葉兼土壌	田植後7日 ～15日 〔ノビエ2. 5Lまで 但し寒地 寒冷地2. 0Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	全 域 普通期栽培 早期栽培	※
	CP-19H 粒剤	茎葉・土壌	田植後7日 ～12日 〔ヒエ2.0 Lまで〕	300	壤土～埴土 (2cm/日以下)	寒冷地以西 普通期 (暖地除く)	

	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品g/a)	適 用 土 壌	適用地帯	使用上の注意
I-4. 移 植 本 田 ↓ 茎 葉 兼 土 壌 (つづき)	アミプロロスS 粒剤	茎葉兼土壌	田植後7日 ～12日 〔ノビエ2〕 〔Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地以西 の普通期 (温暖地の 早期栽培を 含む)	※
	X-52S粒剤	茎葉兼土壌	田植後8日 ～12日 〔ノビエ2〕 〔0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 (3cm/日以下)	普通期 全 域	※
	X-52B粒剤	茎葉兼土壌	田植後5日 ～12日 〔ノビエ2〕 〔0Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔減水深2cm/日〕 以下	全 域 普通期 早 期	
	モリネートS 粒剤	茎葉兼土壌	田植後7日 ～15日 〔ノビエ2〕 〔5Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地以西 早期・普通 期栽培	※ 広葉の多発地の 場合は早目に処 理する
	モリネートSM 粒剤	茎葉兼土壌	田植後10 日～15日 〔ノビエ2〕 〔5Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔減水深2cm/日〕 以下	寒冷地南部 および温暖 地の普通期	※
	モリネートM 粒剤	茎葉兼土壌	田植後7日 ～15日 〔ノビエ2〕 〔5Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔減水深2cm/日〕 以下	温 暖 地 中・西部の 普通期	1.広葉多発地は除 く
	モリネートS・ ダイアジノン粒	茎葉兼土壌	田植後7日 ～15日 〔ノビエ2〕 〔5Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	温暖地以西 の早期・普 通期でダイ アジノンが 適応出来る 地帯	※ 広葉多発地帯で は使用時期早め る
	DCPA・ ベンチオカーブ粒	茎葉兼土壌	田植後7日 ～15日 〔ノビエ2〕 〔5Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地以西 の普通期	1.有機リン剤,カ ーバメート系殺 虫剤との近接散 布をさける 2.苗代で同上薬剤 を土壌処理した 苗使用の場合は 使用をさける 3.湛水深やや深め にして処理する
	TH-62D粒	茎葉兼土壌	田植後7日 ～12日 〔ノビエ2〕 〔0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔減水深2cm/日〕 以下	寒冷地・温 暖地の普通 期	1.高温条件下での 使用は充分注意 2.健苗使用田に使用 する 3.マツバイ多発地 は除く

	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品g/a)	適 用 土 壤	適用地帯	使用上の注意
I-4.	シメトリン・ MCP 3.5 粒	茎葉兼土壤	田植後7日 ～12日 〔ノビエ2.0 Lまで〕	300～400 +10まで300 +10以降400	壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	寒 冷 地 温 暖 地 普 通 期	小苗・軟弱苗の場 合は処理時の深水 をさける ※
I-5. 移 植 本 田 ！ 適 用 拡 大 (体 系)	B-3015S 粒	茎葉兼土壤	田植前後の 土壤処理を した場合2 5日まで 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒 地 寒冷地北部	※
	NH-6967S 粒	茎葉兼土壤	田植前後の 土壤処理を した場合+ 15～25 日頃迄 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地北部	※
	NH-703 粒	茎葉兼土壤	田植前後の 土壤処理を した場合+ 15～25 日まで 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	寒冷地北部	
	HOK-7505A 粒	茎葉兼土壤	田植前後の 土壤処理を した場合+ 15～25 日まで 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	寒 冷 地	
	トリフルリン・ MCPAN 粒	茎葉兼土壤	田植前後の 土壤処理を した場合+ 15～20 日頃まで 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	寒地・寒冷 地	
	SSH-23 粒	茎葉兼土壤	田植前後の 土壤処理を した場合+ 15～+2 0頃まで 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔3cm/日以下〕	寒冷地 温 暖地東部の 普通期	※
	モリネートS 粒	茎葉兼土壤	田植前後の 土壤処理を した場合+ 25日頃ま で 〔2.5Lま で〕	300～400	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒 冷 地 温暖地東部 の普通期	※

	薬剤名	処理法	処理時期	使用量 (製品g/a)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
Ⅱ-1. 稚苗移植 土壌混和	G-315乳	土壌混和	植代時 田植前 1～3日	50	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地以西 普通期(温暖地東部早期含む)	1.混和時水深3～5cm 2.混和深2～3cm 3.マツバイ多発地除く
	G-315粒	土壌混和	植代時 田植前 1～3日	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地以西 普通期(温暖地東部早期含む)	1.混和時水深3～5cm 2.混和深2～3cm 3.マツバイ多発地除く
	G-315B乳	土壌混和	植代時 田植前 1～3日	50	壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	寒冷地以西 の普通期	1.混和時水深3～5cm 2.混和深2～3cm
	B-3015粒	土壌混和	植代時 田植前 1～3日	400～600	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地以西 の普通期	1.混和時水深3～5cm 2.混和深2～3cm 3.コナギ多発地を除く
	BM-3015粒	土壌混和	植代時 田植前 1～3日	400～600	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地以西 の普通期	1.混和時水深3～5cm 2.混和深2～3cm 3.コナギ多発地を除く
Ⅱ-2. 稚苗移植 移植前後土壌	G-315粒	土壌	植代～ 田植前1日	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒地 寒冷地北部	
	B-3015粒	土壌	田植前4日 ～田植後1 0日 〔ノビエ1. 5Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒地を除く 全域 普通期(温暖地東部の早期含む)	
	BM-3015粒	土壌	田植前4日 ～田植後1 0日 〔ノビエ1. 5Lまで〕	300～400	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒地を除く 全域の普通 期(温暖地東部の早期含む)	
	X-52粒	土壌	田植前3日 ～田植後3 日	300	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	全域の普通 期	
Ⅱ-3. 稚苗移植 移植後土壌	G-315粒	土壌	田植後5～ 7日 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	全域の普通 期(温暖地東部の早期を含む)	
	X-52粒	土壌	田植後4日 ～8日 〔ノビエ1. 0Lまで〕	300	砂壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	全域の普通 期(温暖地東部の早期を含む)	

	薬剤名	処理法	処理時間	使用量 (製品g/a)	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
(つぎ)	TOPE(点置)乳	土壌	田植当日～10日 〔ノビエ1. 5Lまで〕	120～200 cc/a	砂壌土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒地除く全 域の普通期 (温暖地東 部の早期を 含む)	湛水深を適度に保 つ
Ⅱ-4. 稚苗移植 ― 茎葉兼土壌	B-3015S粒	茎葉兼土壌	田植後8日 ～15日 〔ノビエ2. 5Lまで 但し寒地 寒冷地2 Lまで〕	300	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	全 域 (温暖地東 部の早期・ 普通期を含 む)	※
	モリネートS粒	茎葉兼土壌	田植後8日 ～15日 〔ノビエ2. 5Lまで〕	300～400	砂壌土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地・温 暖地の普通 期(温暖地 東部の早期 含む)	※ 広葉の多発地では 早目に処理
	ブタクロールS粒	茎葉兼土壌	田植後8日 ～12日 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	暖地除く全 域の普通期 (温暖地東 部の早期含 む)	※
	DCPA・ ベンチオカブ粒	茎葉・土壌	田植後10 日～15日 〔ノビエ2. 5Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	温暖地以西 の普通期	1.有機リン、カー バメート系殺虫 剤との近接散布 をさける 2.育苗期に同上薬 剤土壌処理した 場合使用しない 3.湛水深はやや深 目にする
Ⅱ-5. 稚苗移植 ― 適用時期拡大 (体系)	シメトリン2.5粒	茎葉・土壌	田植前後の 土壌処理を した場合田 植後20日 ～25日頃 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒 冷 地 温暖地東部 の普通期	※
	シメトリン・ MCPB粒	茎葉・土壌	田植前後土 壌処理した 場合、田植 後20～2 5日頃 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300	壤土～埴土 〔漏水深2cm/日 以下〕	温暖地西部 の普通期	※
	モリネートS粒	茎葉・土壌	田植前後土 壌処理した 場合田植後 20～25 日頃まで 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地・温 暖地・普通 期(温暖地東 部早期含 む)	※

	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
Ⅱ-5. 稚苗移植—適用時期(体系) (つづき)	B-3015S 粒	茎葉兼土壤	田植前後の 土壤処理を した場合、 田植後25 日頃まで 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒地・寒冷 地	※
	NH6967S 粒	茎葉兼土壤	田植後土壤 処理した場 合田植後2 0日～25 日頃まで 〔ノビエ2. 0Lまで〕	300	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	寒冷地北部	※
Ⅲ-1. 苗代—水苗代	TOPE(点置) 乳	茎葉・土壤	播種後10～ 16日 〔ノビエ1 ～2L〕	160～200 cc/a	壤土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	温 暖 地	
	ACN(モグトン) 粒 (モ 類)	茎 葉	モ類発生始 ～成期 〔イネ4L 以降〕	200～300	砂 壤 土～埴土 〔極端な漏水田を 除く〕	全 域	1.極端深水さける 2.処理後2～3日 そのままにして おく
Ⅲ-3. 苗代—畑苗代	B-3015乳	土 壤	播種直後 ～2日	60～80 cc/a	砂 壤 土～埴土	全 域	
	DCPA改良乳	茎 葉	ノビエ2.0 ～2.5L	100～200 cc/a	全 土 壤	全 域	DCPA乳に準ず る
	DC-55乳	土 壤	播種覆土壤	50～100 cc/a	全 土 壤	寒冷地以西 から温暖地 東部まで	広葉雑草を主対象 とする。
	TOPE 乳	土 壤	播種直後 ～出芽期 (ノビエ1L まで)	160～240 cc/a	壤土～埴土	寒 冷 地 温 暖 地	ビニール畑苗代に 限る
Ⅳ 湛水直播	B-3015粒	土 壤	播種時3日	300	洪 積 火 山 灰	温暖地東部	
			播種後15 日 〔イネ1.5 L以上 エ1.0～ 2.0L〕	300～400	壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	温暖地以西	
	B-3015乳	茎葉・土壤	播種後15 日前後 〔イネ1.5 L以上 ビエ1～ 2L〕	60～80 cc/a	壤土～埴土 (2cm/日以下)	温暖地以西	深水での使用はさ ける
	モリネート粒	茎葉・土壤	イネ出芽揃 後～1Lま で 〔ノビエ1. 5L期ま で〕	300	壤土～埴土 〔減水深2cm/日 以下〕	全 域	1.イネ科優占圃場 を対象とする

	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使用量 (製品g/a)	適 用 土 壤	適用地帯	使用上の注意
Ⅳ 湛 水 直 播	DCPA・ ベンチオカーブ粒	茎葉・土壌	播種15日 前後 〔ノビエ2〕 〔5Lまで〕	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田を〕 〔除く〕	寒冷地以西	1.有機リン剤、カ ーバメート系殺 虫剤との近接散 布をさける 2.深水処理で効果 やや高い
	BM-3015 粒	土 壌 処 理	播種後20 ～30日 〔ノビエ1〕 〔5Lまで〕 以下 イネ3～ 〔5L〕	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田を〕 〔除く〕	温暖地中部 以西	1.播種前後の前処 理剤との組み合 わせ使用が望ま しい
Ⅴ 乾 田 直 播	アミプロホス乳	土 壌 処 理	播種後 1日～3日	40～60	壤土～埴土	温暖地以西	1.広葉雑草の多発 地を除く
	B-3015乳	茎葉・土壌	播種直後及 び15日頃 〔ヒエ1.5〕 〔Lまで〕 イネ1～ 〔1.5L〕	60～100 cc/a	砂 壤 土 ～ 埴 土	温暖地以西	1.広葉雑草の少い ところ
	B-3015・ プロメトリン乳	土 壌 処 理	播種直後～ 出芽前まで 〔ノビエ1〕 〔0Lまで〕	60～80	壤土～埴土	温暖地以西	
	MO-9 粒	土 壌 処 理	入 水 後 〔ノビエ1L〕 〔まで〕	300～400	壤土～埴土 〔極端な漏水田は〕 〔除く〕	温暖地以西	1.漏水が安定して から使用する
	B-3015S 粒	茎葉・ 土壌処理	入 水 後 〔ノビエ2L〕 〔まで〕	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田は〕 〔除く〕	温暖地以西	※
	BM-3015 粒	土 壌 処 理	入 水 後 〔ノビエ1.5〕 〔Lまで〕	300～400	砂 壤 土 ～ 埴 土 〔極端な漏水田は〕 〔除く〕	温暖地以西	1.漏水が安定した のちに使用する
	DCPA改良乳	茎葉処理	播種後10 ～15日 〔ノビエ2〕 〔～2.5L〕	100～120 cc/a	全 土 壤	温暖地以西	DCPA剤に準ず る
Ⅵ 畦 畔 雑 草	ATA・DCMU 水和	茎葉・土壌	雑草生育初 期	40～60	壤土～埴土	全 域	1.ノリ面散布さけ る 2.流入による薬害 のおそれがある ので充分注意す る 3.稲体にかからな いように散布す る

	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使用量 (製品g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使用上の注意
Ⅵ 畦 畔 雑 草	DPA・MCP・ DCMU水和	茎葉・ 土壌処理	雑草発生前 と 盛 期	100	砂 壤 土～ 埴 土	全 域	1.ノリ面散布さける 2.流入のおそれがあるので充分注意する 3.稲体にかからないようにする
	D C M U 水和	茎葉・ 土壌処理	雑草発生前 期	20～ 30	全 土 壤	暖 地	1.ノリ面散布はさける 2.流入のおそれがあるので充分注意 3.稲体にかからないようにする
	D P A 水 溶	茎葉・ 土壌処理	雑草発生前 と 盛 期 (畦 B)	50～100	全 土 壤	温暖地以西	1.ノリ面散布さける 2.流入の恐れがあるので十分考慮する 3.稲体にかからないように注意 4.イネ科雑草を主対象とする
	DPA・ DCMU水和	土 壌 処 理	田 植 前	100～120	埴 土 ～ 埴 土	寒冷地以西	1.流入のおそれがあるので十分考慮する
Ⅶ 休 耕 田	ATA・ DCMU水和	茎葉・ 土壌処理	雑草生育初期 (4～7 日)	40～ 60	全 土 壤	全 域	1.隣接圃場への飛散流入について 厳重に注意する
	PCP・MCP・ DCBN粒	土 壌 処 理	代かき後雑 草発生前～ 始期 (4～7月)	600～900	全 土 壤	全 域	隣接圃場への流入 については厳重に 注意する

新 登 録 除 草 剤 一 覧

農 林 省 農 政 局 植 物 防 疫 課
昭和46年11月1日～12月31日

分類	種 類 名	商 品 名	有効成分の種類・含有率	剤型	適用作物名 適 用 場 所	適用雑草木名	使用時期	10アール当 り 使用量	使用方法	登録会社
非 ホ ル モ ン 型 除 草 剤	塩素酸塩 除草剤	クロレートS	塩素酸 ナトリウム50.0% 重炭酸ナトリウム30.0%	粒剤	造 林 地 ・ 開 墾 予 定 地	ススキ、イタドリ、フキ、スダヒエ、ヨモギ、シダ、スギナ、メヒシバ、ドクダミ、スズメノテッポウ等	対象雑草がある程度成長した時期 (4月下旬～6月下旬)	10～15kg	茎葉散布	昭和電工

分類	種類名	商品名	有効成分の種類含有率	剤型	適用作物名 適用場所	適用雑 草名	使用時期	10アール当り 使用量	使用方法	登録会社
非 ホ ル モ ン 型 除 草 剤	塩素酸塩 除草剤	クロレートS	塩素酸ナトリウム50.0% 重炭酸ナトリウム30.0%	粒剤	造林地・開墾予定地	アジサイ、リリヨブ、ホウ、ウツギ、ミズギ、カエデ、シデ、クサギ、コナツコ等	萌芽後展葉してある程度活力が旺盛になりはじめた時期（5月下旬～6月下旬）	15～20Kg	茎葉散布	昭和電工
					従地帯	クマザサ、ミヤコザサ、ネマザサ等	新葉が展葉した時期	10～15Kg		
混 合 剤	モリネート・シメトリン除草剤	マメット粒剤	S-エチル・ヘキサヒドロ-1H-アゼピン-1-カーボチオエート 6% 2-メチルチオ-4,6-ビス（エチルアミノ）-S-トリアジン 1.5%	粒剤	移植水稻 北海道を除く 全地域の早期 普通期栽培地 帯、砂壤土～ 粘土（減水 深2cm/日以下）	ノビエその他水田1年生雑草 普通期栽培地及びマツバイ	移植後7～12日（ノビエ2葉期まで）	3～4Kg	湛水散布	八州化学工業 三笠化学工業

期日 昭和47年1月27日（木曜日）

植調協会だより

場所 農業総合研究所会議室

◎ 会議開催日程

- 昭和46年度ミカン関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

期日 昭和47年1月28日（金曜日）

場所 日本都市センター

- 昭和46年度リンゴ関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

- 昭和46年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

期日 昭和47年1月27日（木曜日）

場所 農業総合研究所会議室

- 昭和46年度林地関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時 昭和47年2月10日（土曜日）

場所 当協会会議室

編集後記

今年は何年、……十二支も一順してまたスタートのやりなおし。

終戦当時のわが国の経済は、全く困乱状態であったが、当時では植物のケミカルコントロールなど、一般に普及されるとはとても考えられなかった。除草剤がわが国に導入されたのは、2昔前であるが当時の農業関係者には今日のようには普及されるとは予想できなかったことであろうと思う。

さて、植物調節剤の開発関係者は、この辺で過去をふりかえり、心機一転して、新たな研究

に取り組まなければなるまい。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都港区芝西久保桜川町26番地

東話 東京(03)502-4188(代)

昭和47年1月発行

第5巻第10号

¥70（送料35）

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)436-3388番

安全でよく効く!

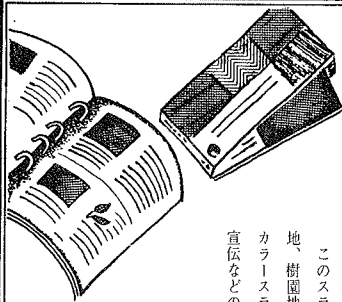
——水田除草剤——

MO粒剤

(CNP除草剤)



MO普及会



●スライド● 雑草シリーズ

鑑修・浅野 貞夫

雑草 (全15巻) カラー 各巻24駒・A5判ケース付

定価/各巻1,500円

このスライドは畑地、水田、あき地、道ばた、非農耕地、樹園地、原野、沼などに生育する約、200種の雑草をカラー・スライド集にしたもので、講習会、除草剤の普及宣伝などの説明会などの教材として最適です。

- ◇畑地雑草 その1~3
- ◇水田雑草 その1~2
- ◇樹園地の雑草 その1~4
- ◇非農耕地の雑草 その1~3
- ◇芝生と庭の雑草
- ◇林地雑草 その1~2

●みかん・薬剤摘果のすべて

山本 正幸 著

A5判 定価1,000円

本書はみかんの薬剤摘果の技術について、摘果剤の性質をみかんの生理と結びつけながらその理論や薬剤摘果の上手なやり方などについて、写真と図を併用し、薬剤摘果のすべてをわかりやすく解説してあります。
みかん栽培技術者や栽培農家には欠かせない新しい技術の実用的解説書です。

農協、普及所の指導員の方々には雑草の調査などにご役立ち、除草剤利用には欠かせない本格的植物生態図鑑です。

●[改訂] 日本原色雑草図鑑

編集 沼田 真 吉沢 長人

B5判 定価6,800円

本書は今回更に雑草の収録種類を追加し、生活型、雑草群落の解説などを加え内容をより充実させた改訂版です。110種の雑草を、芽生えから成植物の段階をカラー写真で掲載し、併せて図を加え、雑草の生態が一目でわかるようになっていきます。



休耕田の 雑草枯らしに!

武田グラモキソン®

休耕田は雑草の発生量が増加し、休耕後の作付が困難になります。
またウンカ・ヨコバイなどの害虫や、いもち病・しらは枯れ病などの病害発生のもととなります。武田のグラモキソンでかならず休耕田の除草をして下さい。

●グラモキソン散布方法

10a 当り100~150ℓの水にグラモキソン300~400CCを希釈して展着剤アルソ一ブを加え加圧噴霧機で雑草にむらなく散布して下さい。



武田薬品工業株式会社 東京都中央区日本橋江戸橋2-7

日本列島から

ノビエ・マツバイ 追放!!



新製品

新水稻除草剤

マメット®粒剤

マメット粒剤は、水田のノビエ、マツバイなど重
害雑草に極めてすぐれた効果があります。その上、
今までの除草剤では効果のない大きくなったノビ
エにも効き、田植後おそくまくことができるので、
労力の配分がうまくいきます。もちろん、人畜や
魚には大変安全です。

三笠化学工業株式会社
福岡市天神4丁目9番1号

八洲化学工業株式会社
東京都中央区日本橋本町1-6 (大和ビル)

お求めは農協で・・・